

児童の情報活用能力の育成の工夫

— 米作り体験学習に情報機器メディアを活用して —



浦添市立当山小学校

作田 健次郎

児童の情報活用能力育成の工夫

— 米作り体験学習に情報機器メディアを活用して —

浦添市立当山小学校 作田 健次郎

【 要 約 】

本研究では、児童の情報活用能力を高めるために、総合的な学習の時間の「米作り体験」に情報教育を取り入れた。「米」についての各自の疑問をグループ毎に課題としてまとめ、それを「インターネット」を使って調べ、要点を整理して「スタディノート」に分かりやすくまとめ、発表した。これらの一連の学習を通してコンピュータ等の情報機器の操作を覚えると共に、情報収集、判断・選択・思考、整理・まとめ、発表・伝達という情報教育が成された。学習後の児童には、情報機器を利用して情報を活用できる能力の芽が育ち、高度情報化社会に生きる力を身につける第一歩が踏み出した。

キーワード

◇高度情報化社会

◇情報機器

◇情報活用能力

◇生きる力

I テーマ設定の理由

近年の著しい情報通信技術の発達に伴い、社会のあらゆる分野で情報化が急速に進んでいる。このような中で、21世紀を担う子どもたちを育てる教育や子どもたち自身も情報化の流れを避けて通ることはできなくなっている。今後の教育においては、情報化の「影」の部分（自然体験・社会体験の不足、人間関係の希薄化、現実感の欠如等）にも十分に配慮しつつ、情報化によるメリットを最大限に生かせるような環境作りをしていく必要がある。

また、平成11年12月19日に、ミレニアム・プロジェクト（新しい千年紀プロジェクト）を内閣総理大臣が決定し、その中で「教育の情報化」として平成12年度から平成17年度までの6年間で全ての公立小・中・高校等からインターネットにアクセスでき、全ての学級のあらゆる授業でコンピュータが活用できる環境を整備する計画をスタートさせている。

沖縄県教育委員会でも「情報教育推進計画」として、今後2年間で公立学校のコンピュータ設置率を向上させ、学校のインターネット接続率を100%にし、校内LAN整備など県立教育センターを核としたオンライン化を目指している。

このような情報教育が推進されることは、児童の

情報活用能力が高まることを目指している。そのために、総合的な学習の時間や全ての教科等を通じて、日々の授業の中でコンピュータやインターネット等を積極的に活用することにより、教師から与えられる情報を受動的に吸収するだけでなく、自ら必要とする情報を自分で集めてその中から目的に合ったものを取捨選択したり、再構成して発表する。このような活動を通して、様々な情報を積極的に収集・整理・活用する能力や、個性を生かして自ら主体的に学び考え、結果を効果的に表現・主張する能力を身につけることができる。

本研究では、社会科の「食料生産を支える人々」や理科の「植物の発芽と成長」と関連した総合的な学習の時間で「米作り」に取り組む。「米」は、日本人の主食として昔から生産されてきた作物である。日本の儀式や祭り等の伝統文化の中にも「米」の存在は欠くことのできないものである。また、多様な米の種類や特徴、稲の育ち方、米の生産地や生産量等、「米」に関する疑問は数多く出てくると思われる。このように「米作り」を通して、様々なことを直接体験したり、観察して学んだり、本やインターネットで調べたりする。また、デジタルカメラに成長の様子を記録する。そのような学習の成果をまとめ・整理して発表する。このように、直接的・間接

的に、様々な情報を収集・選択・判断・思考し、それを整理してまとめ、発表する活動の中で、児童の情報活用能力が高まるであろうと思われる。

以上のことが、本テーマ設定の理由である。

II 研究の目標

◎「米作り」について、インターネットで調べたことを整理してまとめ、発表して伝達することで、主体的に学ぶことや情報活用能力を高め、情報化時代に生きる力を育成する。

III 研究の仮説

1 基本仮説

○児童が学習の手段としてコンピュータを活用することにより、情報活用能力（収集・選択・判断・思考・整理・発表等）が高まるであろう。

2 作業仮説

(1)「米作り」を体験しながら、デジタルカメラに記録することで、情報機器への活用がなされるであろう。

(2)「米作り」に関して、インターネットから情報を収集することで、情報機器の扱い方を学びながら、主体的に学ぶ態度が育つであろう。

(3)収集した情報を選択・判断・思考・整理してまとめ、発表することで、情報活用能力が育つであろう。

IV 研究の構想

1 情報教育の基本的な捉え方

(1) 情報教育の必要性和将来性

21世紀を目前に控え、これからの時代はますます高度情報化社会へと向かっている。21世紀に生きる子どもたちもますます早い段階からの情報教育が求められている。情報教育には、コンピュータを中心としたマルチメディアが活用されるが、その扱い方については発達段階に応じ考慮して指導することが望ましい。また、国も2000年度（平成12年度）から「ミレニアム・プロジェクト」をスタートさせて他の情報先進国に遅れを取らないように計

画を進めてきた。2000年の「沖縄サミット」においても、「IT憲章」を採択し、国際的に情報格差が広がらないように支援していくという決議がなされた。国際社会の中で日本はIT分野においても牽引的な役割を果たす立場に置かれている。我が国を担う子どもたちへの情報教育が、将来、国際社会の中で個人の情報活用能力が十分に発揮されることで、情報先進国として歩いていくことを期待されている。

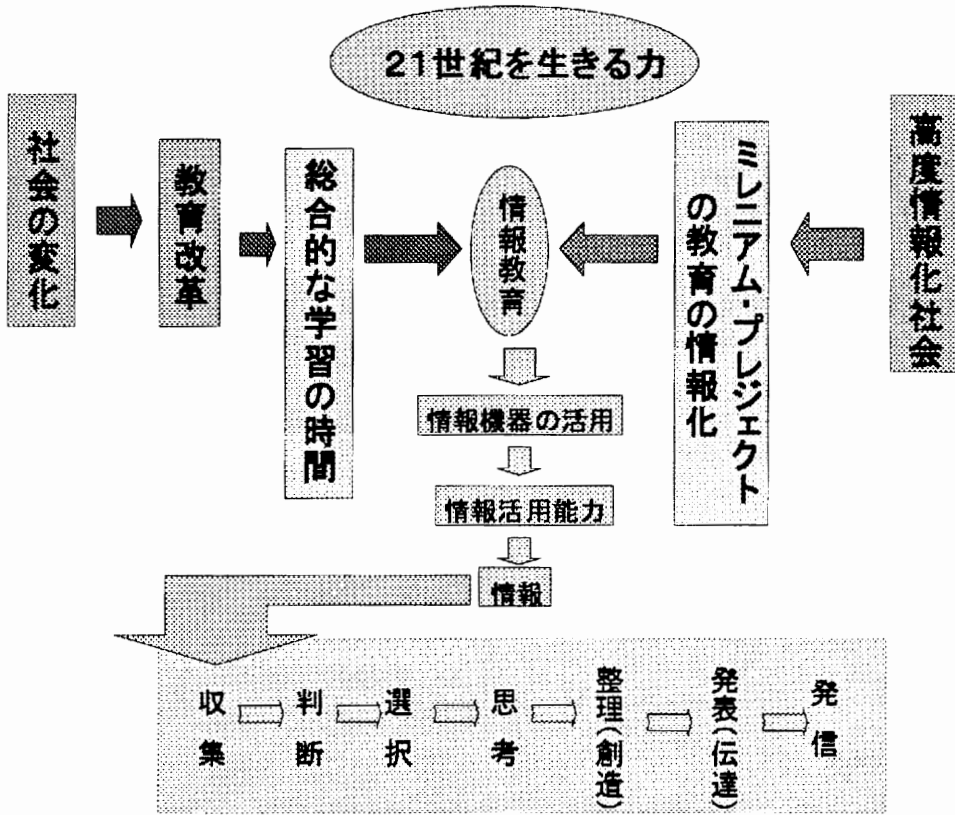
(2) 情報教育に求められていること

今、わたしたちを取り巻く社会は様々な情報の渦の中に埋もれている。その中から自分に必要な情報を早く、正確に取り入れることが求められている。様々な情報の中には、有害な情報や誤った情報も溢れている。そのようなマイナスの情報に惑わされずに、自分にとって必要な情報を収集・選択・判断・思考・整理して伝達・発表・発信できる能力を身につけていくことが大切である。そのために、本研究は、「総合的な学習の時間」の中でこのような情報活用能力を育成するための情報教育を推進するものである。

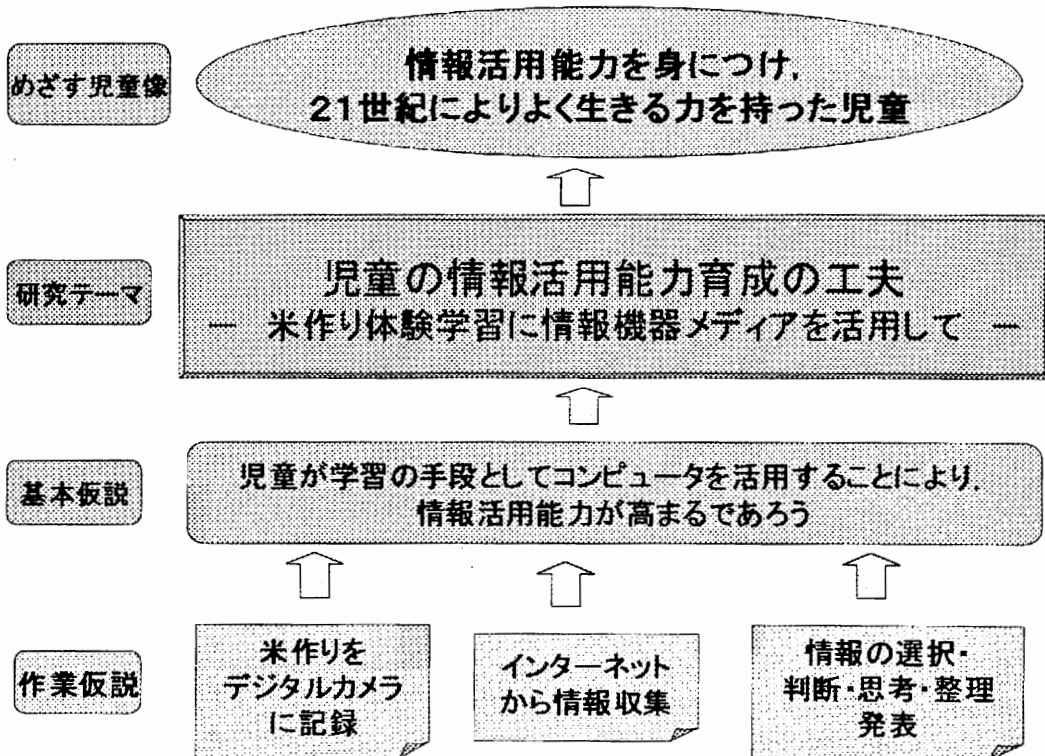
(3) 「生きる力」としての情報教育

「21世紀を展望した我が国の教育の在り方」（中教審第一次答申）の中での「生きる力」を要約すると、「『生きる力』は、初めて遭遇するような場面でも、自分で課題を見つけ、自ら考え、自ら問題を解決していく資質や能力である。これからの情報化の進展に伴ってますます必要になる多くの情報の中から、自分に本当に必要な情報を選択し、主体的に自らの考えを築き上げていく能力は、この『生きる力』を形成する大きな柱である。」と述べられている。情報機器の技術の進歩が急激な現在、コンピュータや情報通信ネットワークなどの情報手段の操作や扱だけを学習したのでは、更に情報技術が進歩した時点で通用しなくなってくる。操作や扱いの背景となる基礎的な理論や、情報を扱う基本的な考え方を習得することが将来にわたって「生きる力」につながると言えよう。

2 情報教育の成り立ち



3 研究構想図



V 研究の内容と方法

1 研究の内容

(1) 情報教育の目標

文部省の「情報化の進展に対応した初等中等教育における情報教育の推進等に関する調査研究協力者会議」の最終報告では、「情報活用能力」を次の3つに区分して、情報教育の目標とした。

①情報活用の実践力

課題や目的に応じて情報手段を適切に活用することを含めて、必要な情報を主体的に収集・判断・表現・処理・創造し、受け手の状況などを踏まえて発信・伝達できる能力。

②情報の科学的な理解

情報活用の基礎となる情報手段の特性の理解と、情報を適切に扱ったり自らの情報活用を評価・改善するための基礎的な理論や方法の理解。

③情報社会に参画する態度

社会生活の中で情報や情報技術が果たしている役割や及ぼしている影響を理解し、情報モラルの必要性や情報に対する責任について考え、望ましい情報社会の創造に参画しようとする態度。

(2) 学校段階別の情報教育

①小学校段階

小学校では、「総合的な学習の時間」をはじめ各教科等でコンピュータ等を適切に活用。特に「総合的な学習の時間」に重きを置き、そのねらいに合わせて「コンピュータや情報通信ネットワークの活用をうまく組み合わせて『情報活用の実践力』を養う」ことが望まれている。

(3) 小学校での発達段階に応じた情報教育

①低学年

集団生活や仲間との遊びを通じて集団の一員として行動できるようになり、また、空想的な世界に興味を持っている。この時期には、直接体験や経験を重視し、疑似体験と実体験との違いに気づかせて本物感覚を育成することが必要である。情報機器には、遊び的な活動を通して触れ、親しませることが適当である。

②中学年

学校生活にも慣れ、集団の規則や遊びのきまりの意義を理解して、集団目標の達成のために主体的に学習活動に関わったり、共同作業ができるようになる。したがって、この時期は、グループによる具体的な問題解決、表現活動を設定するのに適している。情報手段を道具として使う第一段階と捉えることができる。

③高学年

自分の行為を自分の判断で決定しようとするようになり、それに伴い責任感や批判力も出てくる。また、抽象的、論理的思考がめばえ、行為の結果だけでなく、行為の動機や過程も考えられるようになる。このため、この時期には課題解決学習等を設定するのに適しており、そのような活動における情報手段の活用を体験させるとよい。また、学習の手段等を徐々に主体的に決定させ、その結果を自己評価させるような指導も取り入れることが可能になるため、与える情報や情報手段の数を複数にし、その中から選択させる活動を取り入れていくことができる。

このように、低・中・高学年の発達段階に応じて、コンピュータの基本的な操作を無理なく習得させながら同時に情報活用能力を高めていくようなカリキュラムを、学校の実態に応じて編成していくことが大事だと思われる。また、情報化の影の部分にも十分に配慮し、小学校のうちから子どもの発達段階に応じて、情報モラルに関する指導を充実させるとともに、「総合的な学習の時間」や各教科の中でコンピュータを中心としたマルチメディアを活用することで高度情報化社会である21世紀に「生きる力」を培う基礎を養うことができると思われる。

(4) 情報教育への取り組み

新学習指導要領は、小・中学校においては平成14年度から、高等学校においては平成15年度から学年進行により、また盲・聾・養護学校については各学校段階に準じてそれぞれ実施され、中学校において「情報とコンピュータ」が必修になるとともに、高等学校では普通教科「情報」が新設・必修化される。

また、各学校段階にわたり、全ての教科等の指導において児童・生徒がコンピュータや情報通信ネットワーク等の情報手段を積極的に活用しながら、主体的に学び考え、自分の意見を積極的に主張して授業に参加できるような学習活動を充実すべきことが期待されている。

さらに、小・中・高校を通じて「総合的な学習の時間」では、「横断的・総合的な課題」、「児童生徒の興味・関心等に基づく課題」、「地域や学校の特色に応じた課題」などについて、創意工夫を生かした教育活動を行うこととしている。

これからの学校教育活動においては、このようなねらいを達成するためにコンピュータを積極的に活用することが必要になってくる。本研究でも、総合的な学習の時間での「米作り体験」と並行して、「米作り」についての学習に情報機器メディアを取り入れた実践を行う。

2 研究の方法

(1) 総合的な学習の「米作り体験学習」について情報教育に関する学習計画を立てる。

(2) デジタルカメラを利用して記録しておく。

└───────────▶ <情報収集>

(3) コンピュータの扱い方を学びながら、インターネットで「米作り」について調べる。

└───────────▶ <情報収集・選択・判断・思考>

(4) 集めた情報を「スタディノート」にまとめ、発表する。

└───────────▶ <情報整理・創造・発表・伝達>

VI 研究の実際

1 単元名

「米作り体験学習での情報機器メディアの活用」

2 単元の目標

(1) 米作りについて、調べたいことの情報インターネットで収集して選択・判断・思考することにより、情報活用能力を高める。

(2) 「米作り」について調べたことを整理してまとめ、発表することを通して、児童の情報活用能力を高め、主体的に学び、情報化時代に生きる力の基礎を育成する。

3 単元について

(1) 教材観

本単元は、社会科の「食料生産を支える人々」や

理科の「植物の発芽と成長」での学習から稲と人間との関わりにも着目した発展的な学習へと総合化されていく。実際に「米作り」を体験しながら、インターネットを使ってたくさんの情報を収集する。そして、米作りに関する情報を収集して選択・判断・思考して整理し、発表することを通して情報機器の活用慣れるとともに、創造・伝達能力を養い、情報活用能力を高めることを目的としている。

教科学習を基本にして、稲を育てる実体験と情報機器からの双方から学んだり調べたりすることで、より深くより広く学習する方法を身に付けることができる。これは、新学習指導要領の中心的課題である「生きる力」を育て、自ら学ぶ態度の育成にもつながるものである。

(2) 児童観


本学級児童は、今までに社会科の新聞作り等で調べ学習を行ったことはある。しかし、コンピュータに触ったことのある児童は数名いるが、調べ学習等で自由に扱えるまでには至っていない。その他ほとんどの児童は、触ったこともないというのが実状である。ワープロに関しては、数人の児童はある程度慣れており、キーボードからの入力も何とかできるという状況である。しかし、コンピュータに対する関心は高く、コンピュータを使っての授業は、とても楽しみにしている。そこで、できるだけ簡単にコンピュータを扱える技術やソフトを工夫することで、コンピュータに関する意欲を減退させることなく慣れさせていくことを心がける。また、基本的な操作を一通り覚えたら、できるだけ多くの児童が楽しく機器を扱えることを目指す。

(3) 指導観

本教材の目指す目標は、情報活用能力の育成である。そのためには、自分が疑問に思うことや調べたいことを明確にして、その課題追求意識を持ちながら情報機器を利用することが大切である。本教材では、「米作り」について疑問に思うことや調べたいことを事前に挙げさせて、グループ内で類別化し、明確な課題意識を持ちながら学習を進めさせていくことに留意したい。また、整理した情報を発表することにより、情報を送る側の意識を体験することができ、そのことが情報を判断する能力を高めることにつながると考えられる。そして、このような活動を通して、これからの高度情報化時代に生きる児童の情報活用能力の育成を図っていきたい。

4 単元の学習計画

(1) 「米作り」を通しての情報教育と関連教科の学習計画

教科・領域	5月	6月	7月	8月	9月	10月
総合的な学習 情報教育	<p>米作りをしよう！ </p> <p>種まき・田作り・田植え 水の調節・草取り 収穫・調理</p> <p>*様子が分かるようにデジタルカメラで記録していく。</p> <p>*米作りについてインターネットで調べる。</p> <p>*インターネットで調べたことを整理してスタディノートにまとめていく。</p>					
社会	「食料生産を支える人々」					
理科	「植物の発芽と成長」					

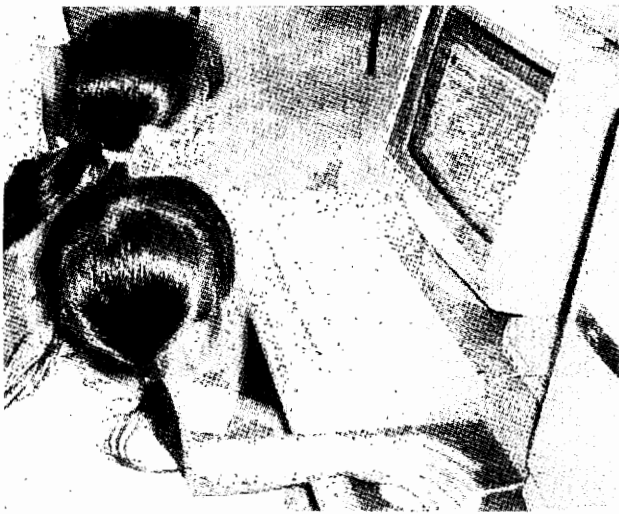
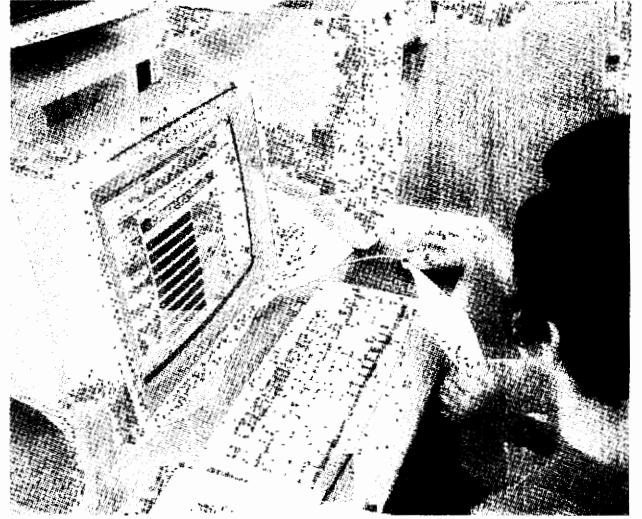
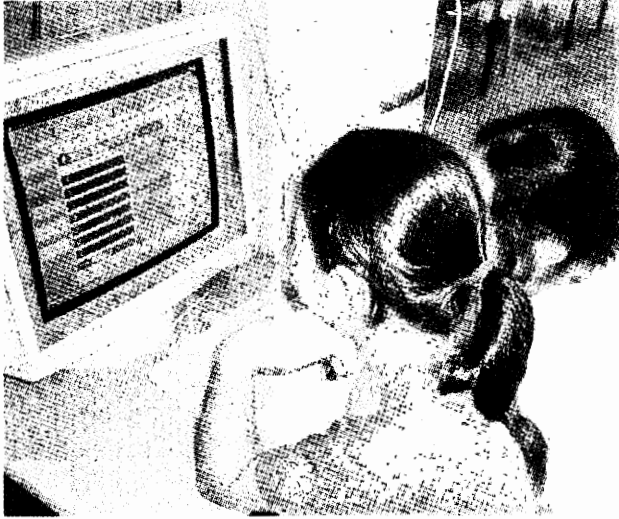
(2) 総合学習「米作りをしよう」の単元学習計画

時	小单元名	米作りに関する学習活動	情報教育に関する学習活動
1 ↓ 6	米作りに挑戦しよう！	<p>○米作りの準備のための話し合いをして、活動計画を立てる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・種もみの準備 ・田起こし、肥料まき ・苗床の準備 ・苗作り <p>○バケツ栽培も並行して行う。</p>	<p>○米作りについての知識を集める。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教科書や本、資料等から ・写真から <p>○バケツ栽培について調べる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・資料や写真等から <p>◎活動や稲の成長の様子はデジタルカメラで記録する。</p>
7 ↓ 23	稲や米づくりについて調べよう	<p>○稲の成長を観察して、記録する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・気温 ・水温 ・土の温度 ・稲の成長の様子 <p>○稲の世話をする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・水の確保、調節 ・草取り ・害虫駆除 ・病気の予防 ・台風対策 	<p>◎米作りについて、自分が疑問に思うことやもっと知りたいことをインターネットで調べる。(情報収集)</p> <p style="text-align: center;">《本時》</p> <p>◎今までに調べて分かったことをグループ毎に「スタディノート」にまとめて、プロジェクターで発表する。(情報選択・判断・思考・整理・発表)</p>
24 ↓ 30	米の収穫をしよう	<p>○稲刈り、天日干し</p> <p>○脱穀</p> <p>○精米</p> <p>○試食会をしよう。</p> <p>○米作りの体験を振り返り、まとめの作文を書く。</p>	<p>◎「米作り」の様子を5年生のホームページとしてまとめる。</p> <p>◎学校のホームページ開設の準備ができたなら、掲載する。</p>

(3) インターネットを使った学習の様子

インターネットを使つての調べ学習は、あらかじめ「YAHOO!きっず」や「こねっとgoo」などから「お米」をキーワードに検索して、必要な情報がたくさん含まれているデータベース集を探し出

しておいた。そして、実際に子どもたちが検索した時に出てきたたくさんの検索結果からこれらを選ばせて、そのデータベース集を利用して必要な情報を収集させるようにした。



<活用したホームページ>

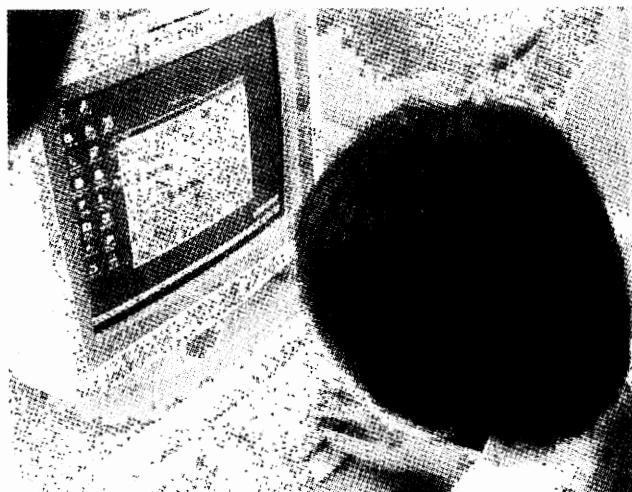
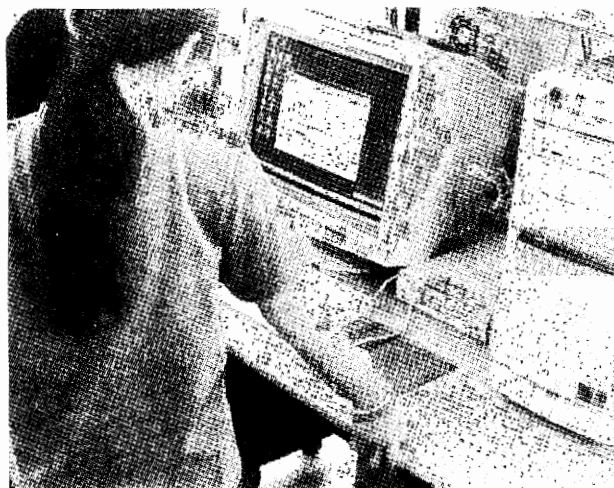
『お米データベース』（JA全中・農水省） <http://www.rim.or.jp/okome/komedp.html>

『お米百科』（亀田製菓） <http://www.kamedaseika.co.jp/ricepark/indexall.htm>

(4) スタディノートを使った学習の様子

それぞれのグループの課題をインターネットを使って情報を集め、選択・判断・思考しながら「スタディノート」に整理し、まとめていった。「スタディノート」へのまとめ方については、見る人に分かり易いように字の大きさや色、間隔の取り方に気を

つけたり、写真や図を入れて説明したりといろいろ工夫をした。また、ジャンプボタンなどページからページへと自由に移れる機能なども利用して、発表の時にスムーズに画面が進むようにした。



5 本時の学習

(1) 本時の目標

◎「米作り」についてインターネットで調べ、整理したことを「スタディノート」にまとめ、プロジェクターを使って発表する。

(2) 本時の展開

	学 習 活 動	教 師 の 支 援
導 入	<p>◎本時のめあてを確認する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content;"> <p>・米作りについてインターネットで調べて、スタディノートにまとめたことを発表する。</p> </div>	<p>○発表グループと聞くグループの留意点を示して、発表会が成功するように促す。</p>
展 開	<p>◎発表するグループは、機器操作とナレーターに分かれて、わかりやすく発表する。</p> <p><4グループ></p> <ul style="list-style-type: none"> ・農業の機械化 ・一年でとれる量 等 <p><2グループ></p> <ul style="list-style-type: none"> ・米の種類 ・米の育ち方 等 <p><7グループ></p> <ul style="list-style-type: none"> ・稲と米 ・稲の種類 等 <p><5グループ></p> <ul style="list-style-type: none"> ・世界の米倉地帯アジア ・日本の稲作 等 <p>◎発表が終わったら、聞いていたグループは、良かった点や工夫されていた点を述べる。</p>	<p>○機器操作の援助をする。</p> <p>○発表順は、調べた内容や量に応じて決める。</p> <p>○残り4グループは次回に発表する。</p> <p>○発表の声の大きさや読む速さ等の注意を随時促す。</p> <p>○聞く態度（静かに集中する）の注意も随時促す。</p> <p>○内容面、画面構成、その他工夫されていた点を発表させる。</p>
ま と め	<p>◎今日発表のグループが終わったら、全体を通して思ったことや考えたことを話し合う。</p>	<p>○次のホームページ作成に生かせるようにする。</p>

(4) 検証授業の様子

<本時まで使用した情報機器メディア>

・デジタルカメラ ・インターネット接続のコンピュータ ・学習支援ソフト 「スタディノート」

<本時で使用する情報機器メディア>

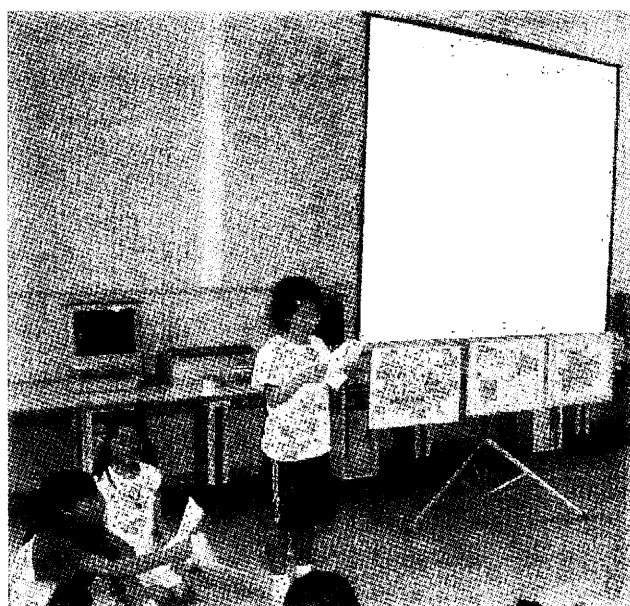
・ノートパソコン ・学習支援ソフト「スタディノート」 ・プロジェクター ・スクリーン

(3) 評 価

◎グループ毎の課題について、インターネットで調べたことを整理してまとめることができたか。

◎自分たちのまとめたことを分かりやすく発表することができたか。

(4) 検証授業の様子



(5) 検証授業後の考察

検証授業では、情報活用能力の「発表・伝達」の段階であった。今までの情報収集・選択・判断・思考・整理という内的な（個人内）情報活用能力から、外的な（他者へ向けての）情報活用能力の育成という表現能力の場であった。情報機器としては、ノートパソコンからプロジェクターを使ってスクリーン

に映し出し、操作もほとんど児童だけで行うことができた。自分たちの創り上げた「お米」についてのスタディノートは、友達（他者）にわかりやすくするために画面上の文字の大きさ・色・図・写真等を工夫しており、短時間での制作であったが良い出来映えであったと思う。これからスタディノートをど

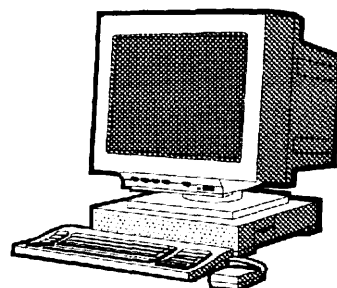
んどん創っていくうちに、更にオリジナルな発想の作品が出てくると思われる。また、今回は取り組まなかったが、スタディノートのデータベース化や親情報・子情報に分けてのメールのやり取り等も他の題材で試みてみようと思っている。このようなスタディノートを使っての情報活用能力の最終段階は、外部への情報発信能力として学校全体での取り組み

のもとにホームページ作成を計画している。スタートはインターネットを使ってホームページから情報を集めたが、ゴールは自分達がホームページを作成する。そして、そこから更にメールの交換等で情報交流を行っていく。これら一連の活動の一部として本時の検証授業は情報活用能力を一歩進めることができたと思われる。

6 授業後の児童の感想

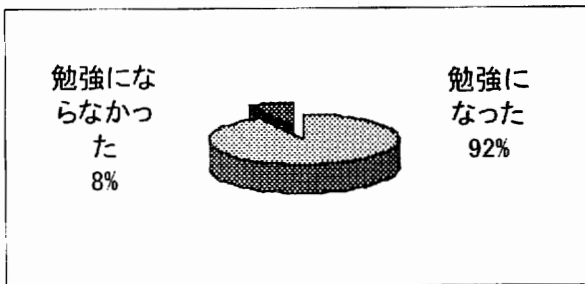
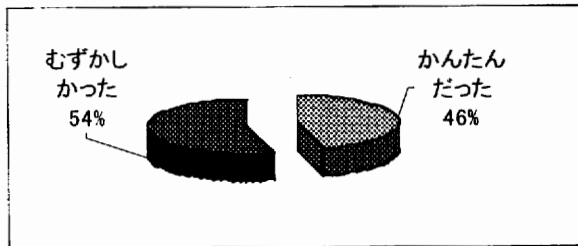
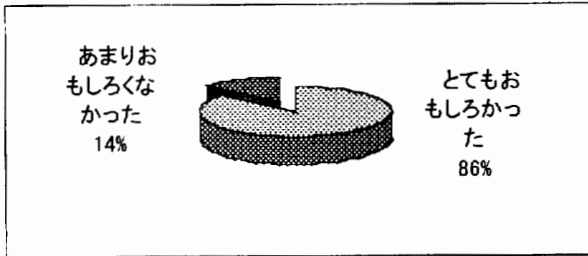
(1) アンケート用紙

授業後のアンケート	名前 ()
◎ コンピュータを使った授業をしましたが、その感想をきかせてください。	
1 インターネットをやってみて、どうでしたか。 <りゆう>	
① () とてもおもしろかった () あまりおもしろくなかった	<りゆう>
② () かんたんだった () むずかしかった	
③ () 勉強になった () 勉強にならなかった	
2 スタディノートを使って学習して、どうでしたか。	
① () とてもおもしろかった () あまりおもしろくなかった	<りゆう>
② () かんたんだった () むずかしかった	
③ () 勉強になった () 勉強にならなかった	
3 コンピュータを使った学習で、思ったことや感じたことを書いてください。	

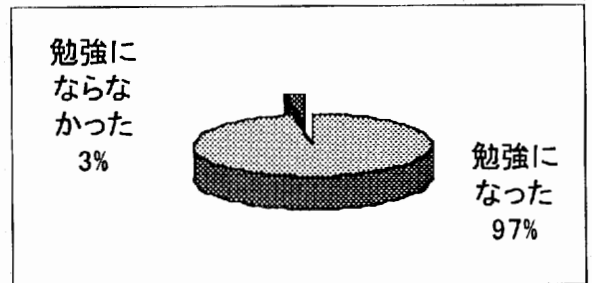
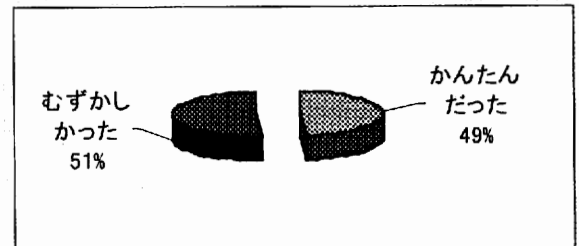
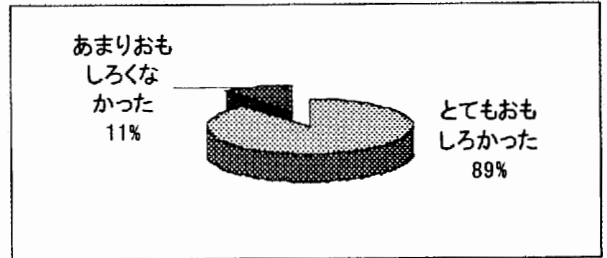


(2) アンケートの結果

< 1 インターネットをやってみて、どうでしたか。>



< 2 スタディノートで学習して、どうでしたか。>



③アンケート結果の考察


インターネットを使った学習では、ほとんどの子が楽しく学習できて勉強になったと答えているが、半分の子が難しかったと答えている。その理由として多くあげられていることはローマ字をまだよく覚えていないということであった。スタディノートを使った学習でも、ほとんどの子が楽しく学習できて勉強になったと答えているが、ここでも半分の子が難しかったと答えている。その理由としてインターネットからの資料をまとめることや、コピーや貼り

付けの操作、マウスの使い方、キーボードからの文字の入力等を挙げている。しかし、感想ではコンピュータの使い方がわかってとても楽しかった、インターネットでたくさんのことが調べられることが分かった、スタディノートの使い方が分かった、「米」のことについていろいろなことが分かったなどの意見が多く学習効果はとても高かったと言える。これらの結果から、コンピュータの扱い方も含めて子どもたちはたくさんのことを学び取ったと言えよう。

(7) 児童のスタディノートの作品 (途中省略)

<2グループ>

米について



2グループ

- ひろや
- まさや
- ゆうき
- ちしょう
- あつし

[1ページ/11]

米について

もくじ

- 1 米の種類
- 2 米の育ち方
- 3 栽培地

[2ページ/11]

米について

1 米の種類

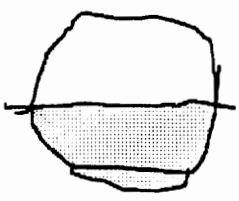
- ジャポニカ米 (日本型)
- インディカ米 (インド型)
- ジャパニカ米 (ジャワ型)

次へ

[3ページ/11]

米について

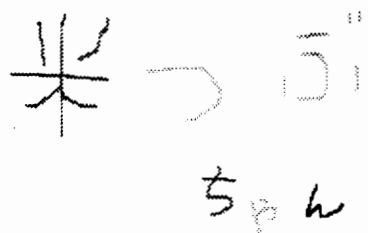
これで、2グループの発表を終わります。
とても楽しかったです。できてうれしかったです。



[11ページ/11]

<4グループ>

米つぶちゃんについて



4グループ


メンバー

- ももか
- みかこ
- たまみ
- あかね
- さぎ

[1ページ/9]

米つぶちゃんについて

- 1 農業の機械化
- 2 一年でとれる量
- 3 働く人は何人か?
- 4 一番お米をつくっている県




[2ページ/9]

今の農業機械

トラクター、田植機、防除機、バインダー、自脱型コンバイン、米麦用乾燥機が使われている。

このように昔より機械化がどんどんすすみ、農業のほとんどに機械が使われるようになってきている。




トラクター 田植え機 コンバイン

[4ページ/9]

これで、私たち4グループの発表を
終わります。


インターネットやスタディーノートの使い方が
わかって、とても勉強になりました。



[5ページ/9]

<5グループ>

米しらべ



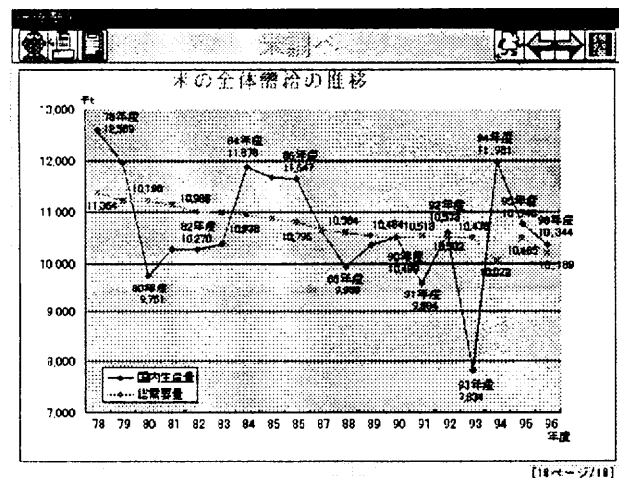
5グループ
メンバー

しょうた
むさし
りょう
としゆき
けんしろう
ゆうすけ

[1ページ/18]


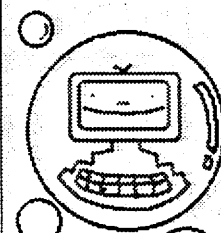
- 1 世界の米倉地帯アジア
- 2 日本の稲作
- 3 イネの育ち方
- 4 お米の生産量

[2ページ/18]



これで5グループの発表を終わります。

コンピュータもマウスの使い方もわかりました
お米の勉強もわかりました。

[18ページ/18]

Ⅶ 研究の成果と課題

1 研究の成果

(1) 情報教育の進め方について

平成14年度から完全実施される新学習指導要領のなかで、21世紀という時代の要請に答えることができる「情報教育」の進め方について、小学校段階での内容や、小学校の低・中・高学年と進級するなかでの到達目標等を要約した。このことにより、学校教育の中で無理なく段階的に「情報活用能力」を身に付けていくための指針を持って「情報教育」を進めていくことができると思われる。

(2) 情報機器の習得について

ほとんどの児童がコンピュータを触ったことがないなかで、本研究で情報教育の授業を進めていくうちに、だんだんに機器の扱いにも慣れてきた。また、教室から世界の情報を集めることができる「インターネット」ができるようになった。さらに「スタディノート」という全国にネットワークの貼れる学習支援ソフトの利用もできるようになった。

(3) 情報活用能力について

本研究の目的である「情報活用能力」については、上記してきたように、「米作り」をテーマにして、情報収集・選択・判断・思考・整理（まとめ・創造）・発表（伝達・発信）という段階を経ながら、意欲的・自主的な学習活動を行うことができた。これからは、本研究を足掛かりとしてさらに他領域・他教科へと情報教育を進めて行くつもりである。

2 今後の課題

(1) 総合的な学習として取り組んでいる「米作り体験」を最後の試食までして、体験学習の喜びを味わわせると共に「米作り」についてインターネットで調べた様々な情報を、これからの学習や生活に生かしていけるような話し合いや作文などの思考活動を行い、直接体験と調べ学習による間接体験を有機的に結びつけさせることでたくましく・かしこく「生きる力」を身につけていく「学び方」を理解させていく。

(2) 情報活用能力の発信にあたる「ホームペー

ジ」作成へ向けて学校全体の枠組みを仕上げていくとともに5年生のページを随時更新していけるような体制や内容を工夫していく。

おわりに

本研究は情報教育のなかで、情報活用能力を育成するための工夫として進めてきたが、まだまだ序の口であり、これからが本格的な実践の始まりだと思っている。どんどん進化するコンピュータ社会の中で、便利になる反面、正しい情報活用能力の育成が低学年から必要な時代である。情報に振り回されないで、情報を上手に活用できる能力の育成を目指してこれからの実践を行っていきたいと思っている。

最後になりましたが、本研究所での研修の機会を与えて下さった前校長の仲田正則先生、現校長の山内勝美先生、また、浦添市教育委員会の先生方には、厚くお礼申し上げます。

更に、本研究所の新城英将所長、新川純子係長、与古田思信主事には、たくさんの貴重な御指導・御助言を頂くと共に、いろいろとお世話になりました。心より感謝致します。また、研究所職員の皆様にもお礼申し上げます。

そして、当山小学校の5学年の先生方、本研究へのご理解とご協力、有り難うございました。

六ヶ月間、大変充実した日々を過ごすことが出来ましたことを皆様に感謝申し上げて、「おわりのことば」にさせていただきます。

参考・引用文献

- ・永野和夫 編著 『これからの情報教育』
高陵社 (1995年)
- ・中村裕治 川越秋廣 田頭裕 編 「小学校
情報教育Q&A」 教育出版 (1999年)
- ・水越敏行 編著 『メディアを生かす授業作り』
ぎょうせい (1999年)
- ・赤堀侃司 編著 「情報活用能力をはぐくむ」
ぎょうせい (2000年)
- ・『文部省のホームページへようこそ』
<http://www.monbu.go.jp/>